

LIFE社の写真家による日本光学の評価

2025年7月19日
ニコン研究会 山本

時期	出来事
1945年12月	ニッコール 5cm/F3.5(Lマウント)製造再開
1946年	ニッコール 5cm/F2製造再開
1948年3月	ニコン I 型発売
1948年4月	ニッコール 5cm/F2発売
1948年10月	ニッコール 13.5cm/F4発売
1949年4月	ニッコール 8.5cm/F2発売
1949年10月	ニコンM型発売
1950年1月	ニッコール 3.5cm/F3.5発売
1950年1月	ニッコール 5cm/F1.5発売
1950年6月	LIFE社専属写真家D.D.ダンカン氏が来日していた際に、LIFE社契約写真家三木淳氏が写真家村井氏所有のニッコール 8.5cm/F2でダンカン氏の写真を撮って見せたところ、「すごい！実にシャープだ！どこの製品だ？この会社にすぐ行こう。連絡してくれ。」となり、日本光学大井工場をダンカン氏、「フォーチュン」のH.プリストル氏、三木氏が訪問した。 大井工場では長岡社長みずから案内し、投影検査機で2人の持っているライツ・ツァイスのレンズと比較した。2人は「ニッコールはドイツ製のレンズよりも良い」と賞賛し、ライカ用ニッコールを買いそろえた。
1950年6月25日	朝鮮戦争が勃発し、ダンカン氏はライカⅢC 2台にニッコール 5cm/F1.5と13.5cm/F4を装着して前線へ飛んだ。
	その数日後、LIFE社からC.マイダンス氏が朝鮮戦取材のため来日し日本光学を訪問。愛用のコンタックスにニッコールレンズを取り付けることになり、7月に8.5cm/F2と試作品の13.5cm/F3.5のマウントをコンタックス用に改造した。
	ダンカン氏と交代で来日したH.ウォーカー氏はレンズだけでなくボディをニコンM型に取り換えて朝鮮に向かった。12月になると零下20℃まで下がり、他のカメラが動かなくなる中でニコンは確実に動いた。
1950年7月	ニッコール 5cm/F1.4発売
1950年12月	ニコンS型発売。ニッコール 13.5cm/F3.5発売
1950年12月10日	ニューヨークタイムズ紙に「日本のカメラ」と題した記事で、「日本のカメラとレンズはドイツ製より優秀」と報じた。
1951年1月	GHQ経済科学局長のマーカット少将は、「貴社が広汎な科学的知識および特異な製造上の熟練を要する最も困難な事業において世界的に認められるに至ったことを喜び、満足している。日本光学従業員諸君は、かくのごとく日本経済の再建に実質的の貢献をなしつつあることに対し誇りを感じて良い。」と書簡を寄せた。
1952年7月	ニッコール 3.5cm/F2.5発売
1953年2月	ニッコール 8.5cm/F1.5発売
1953年6月	ニッコール 2.8cm/F3.5発売
1954年7月	ニッコール 25cm/F4発売
1954年8月	ニッコール 10.5cm/F2.5発売
1954年12月	ニコンS2型発売

出典： (1)光とミクロと共に ニコン75年史、1993年
(2)ニコン100年史 I・II、2018年